

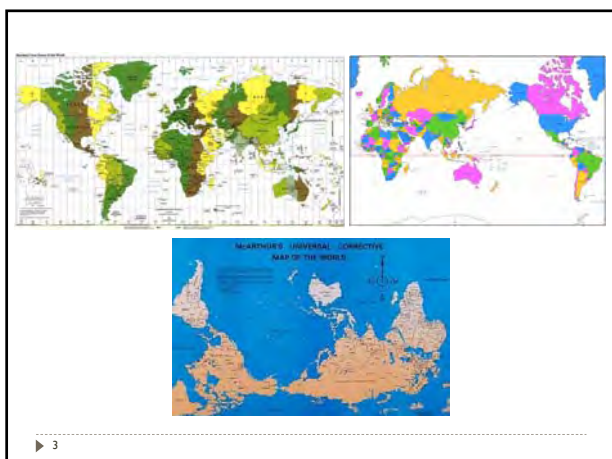
## 11 想像世界の歴史地理

「現代の地理学」第11週

### 地図の思想性 (1)

- ▶ 私たちの思い浮かべる「世界図」
  - 太平洋が真ん中、日本が赤く示される
  - 科学性や実用性を備えている
- ▶ 大航海時代を通じて「未知の大陸」が消滅、それに従い地図上に想像上の世界を描くスペースも消される
- ▶ 測量や投影法の技術・理解の進展→正しい図が求められる＝思想性や芸術性は表に現れない
  - ↑
  - 自国を赤にする、経緯度や投影法を重視する科学至上主義

▶ 2



▶ 3

### 地図の思想性 (2)

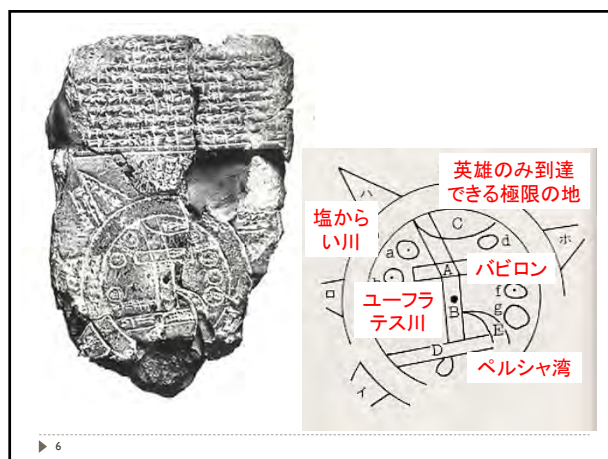
- ▶ 認識の主体
- ▶ 異なった地域・文化圏の間では、あるいは同一の地域・文化圏であっても地図の描き方が異なる＝個人や集団間での差異
- ▶ 地図について語るとき「誰の認識・知識であるか」検討が必要
- ▶ 「読者」を想定した「作者」の表現行為

▶ 4

### 地図からみた世界観 (1)

- ▶ バビロニア粘土版世界図
  - ▶ 紀元前600年頃
  - ▶ メソポタミアを中心にしてバビロニア人が描いていた地理的世界像を表現

▶ 5



▶ 6

### 地図からみた世界観 (2)

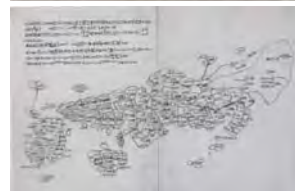
#### ▶ 仁和寺蔵の日本図

- ▶ 最古の日本図、嘉元3年(1305)作
- ▶ 奈良時代の高僧行基(668~749年)が作ったという伝承から「**行基図**」とも呼ばれる
- ▶ 俵型に「国」を書き連ねる
- ▶ 日本が密教の装具である「独鈷(とっこ)」の形をしていると信じられていた

↓  
国土理解に密教(仏教)が強く影響



▶ 7



左:大日本国図  
『拾芥抄』天文17年  
(1548)

▶ 8

### 地図からみた世界観 (3)

#### ▶ 金沢文庫本日本図

- ▶ 仁和寺本とほぼ同時期
- ▶ 異域の表現  
「高麗」、「新羅」(当時存在せず)  
「雁道」(城ありといえども、人にあらず)  
「羅刹国」(女人あつまり、来る人還らず)  
→江戸時代まで表記
- ▶ 龍体  
四至において日本を守る
- ▶ 日本人の世界観、想像世界の中に「实在」



▶ 9

### 地図からみた世界観 (4)

#### ▶ 大日本地震之図

- ▶ 寛永元年(1624)
- ▶ 龍と日本の関係が上下に
- ▶ 日本の下で地震を起こす
- ▶ 鹿島神宮の「要石」が龍をおさえる
- ▶ 12枚の背びれで各月の地震占い



▶ 10

### 地図からみた世界観 (5)

- ▶ 思想性・芸術性の強調
- ▶ マツパエムンディ(中世世界図)  
▶ ヘレフォード図(1300年頃)  
▶ 中心=聖地エルサレム  
▶ 東が上=「創世記」の「エデンの園」を置く  
▶ キリスト教的世界観の描出



▶ 11

### 地図からみた世界観 (6)

- ▶ 仏教系世界図(後述)
- ▶ 五天竺図(法隆寺蔵)  
▶ 日本最古の仏教系世界図  
▶ 14世紀写し  
▶ 人々に世界の姿を説く



▶ 12

## 江戸時代に流布した世界図 (1)

- ▶ 18世紀中ごろまで
- ▶ **仏教系世界図**
  - ▶ 仏教的な世界観に基づく
  - ▶ 世界の中心は「須弥山(すみせん)」、その南に人間が居住する大陸「瞻部州(せんぶしゅう)」=逆三角形
  - ▶ 世界の4大河川の源流である「無熱惱池」が中央に書かれている
  - ▶ 周囲にはヨーロッパ、アメリカ大陸表現=仏教的世界観にない世界も苦心して表現

▶ 13



南瞻部洲万国掌葉之図(1710年)

▶ 14

## 江戸時代に流布した世界図 (2)

- ▶ **リッチ系世界図**
  - ▶ ヨーロッパ・中国からもたらされる
  - ▶ イタリア人イエズス会士 **マテオ・リッチ** (1552-1610年) が中国で作成した『坤輿万国全図』系統の地図
  - ▶ 太平洋・中国が中心=現在の世界図の起源
  - ▶ 南極周辺に「未知の大陸(テラ・インコグニタ)」

▶ 15



利瑪竇 坤輿万国全図(1602年)

▶ 16



石川流宣 万国総界図(1688年)

▶ 17

## 江戸時代に流布した世界図 (3)

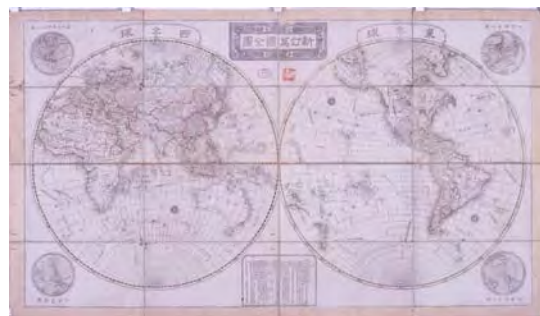
- ▶ 18世紀後半
- ▶ **蘭学系世界図**
  - ▶ ヨーロッパからもたらされた地図を基礎とする
  - ▶ 不明な「未知の大陸」描かず、分明なる地域を航海や測量の成果から正確に描く→地図の精度・科学性
  - ▶ 前二者とは比較にならないほどの正確さ
    - ▶ 両球図の意味

▶ 18



司馬江漢 和蘭考成万国地理全図照写  
江戸時代後期写(ブラウ「世界図」1678年刊第4版)

▶ 19



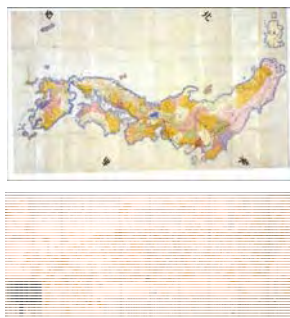
高橋景保 新訂万国全図(1816年頃)

▶ 20

### 地図史からみた近代 (1)

#### ▶ 科学性・実用性へ

- ▶ 享保日本図(1717-28年)
  - ▶ 初歩的な測量術を用いた国絵図をもとに幕府が日本総図作製
  - ▶ 地形の正確さ追及
- ▶ 本朝図鑑綱目(1687年初版)
  - ▶ 石川流直による出版図
  - ▶ 実用的だが科学的でない
- ▶ 芸術性の重視から科学性の重視へ



▶ 21

### 地図史からみた近代 (2)

- ▶ 日本輿地旅程全図(1779年)
  - ▶ 長久保赤水のロングセラー
  - ▶ 日本列島の沿岸地形に近づくー地理情報の蓄積
  - ▶ 科学性への指向性
- ▶ 日本名所の絵(刊行年未詳)
  - ▶ 鍛形憲齋(1764-1824年)
  - ▶ 鳥瞰図
  - ▶ 大胆な表現も豊富な地名による実用性



▶ 22

### 地図史からみた近代 (3)

#### ▶ 伊能図

- ▶ 大日本沿海輿地全図(1821年完成)
  - ▶ 海岸線実測+天体測量
  - ▶ 測量術、数学(和算)、天文学、工学
- ▶ 近世後期の測量技術の集大成
- ▶ 暦の作成と海岸地形の把握(国防)
- ▶ 余りの正確さにイギリス海軍が測量中止(1861年)



▶ 23



▶ 24

葛飾北斎「地方測量之図」(1848年)

## 地図に表象される世界

- ▶ 景観復原のツールよりも、歴史的世界観を表現するテキストとして→解説の面白さ
- ▶ 想像・伝承から実測図に基づいた科学的地図へ
  - ▶ 想像・伝承→作成者・作成時代の世界認識反映
  - ▶ 地図の精度の高まり→地理的知識・技術の国際的伝播
- ▶ 国内外でのダイナミックな知識の流通が存在

▶ 25

## まとめ

- ▶ 歴史地理学
  - ▶ 現在を形作った過去を対象とし、過去の地表面における様々な現象、地表面についての認識を研究
    - ①現実の世界(実在的世界)→歴史地理学の主流
    - ②認識上の世界(主体的世界)→過去の人間にとって意味のある風景・場所、無意識の世界観
    - ③抽象化された世界→過去の空間的モデル(GIS)
- ▶ 歴史地理学と地図資料
  - ▶ 景観(過去の現実世界)復原の素材
  - ▶ 過去の人々の想像した世界(コスモロジー)の表現

▶ 26